日農九州同盟會　支部　五九　組合員　五、四九〇名
全農福岡縣聯合會（總本部派）〃　一一　〃　六一四名
全農福佐聯合會（會議派）〃　五四　〃　二、〇四六名

次に組合の經濟運動は其の主義主張を異にするに從ひ差異あるは言を俟たないが、概ね舊來の小作料の一時的減額要求より漸次永久減額要求に轉じ、更に最近に於ては地主の積極的土地引上戰術に對して「土地は農民へ」をスローガンとする耕作權確立運動へ進展し、農村救濟策として低利資金支拂延期運動、或は借金條引運動等も現はれ、一方小作爭議は逐年增加の傾向を辿り

昭和三年　一　四二件　　昭和四年　一　五四件
昭和五年　一　九一件　　昭和六年　一　一四五件
昭和七年（十一月末迄）一一四一件

の數字を示し、其の手段方法に至りては、日農系組合は主として

財團法人 協調會福岡出張所

公判鬪爭戰術に出で行動は穩健であるが、全農系に於ては漸次過激の行動に出で、小學兒童の團体消防組青年團農會脱退等の手段に訴へたる事例少からず、殊に最近は大衆行動に依るテロ化の傾向あり即ち昭和七年一月飯手郡金川村の小作爭議に於て全農會派組合員の地主襲撃應援事件の發生を見たるが如き其の著例である。

2、農民組合各派の近勢

a、全農福佐聯合會の近狀

昭和三年八月佐賀縣鳥栖町に於て發會式を擧げた本組合は去る大正十三年三月高崎正戸等の創立したる日農九州同盟會の後身とも謂ふべきものなるが、同人等の穩健派が大正十五年三月の全國大會後脱退して以來急進青年幹部並に水

財團法人 協調會福岡出張所